古事類苑

宮位門

卯
合
43
2

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2

ガラス使用

古事類苑

官位門

近衛府 附 授刀舍人寮 中衛府

特別 卯 86 2

東京圖書館
寶 門 類 卯 函 架 二 號 八六 冊

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2

ガラス使用

古事類苑稿

東京國書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2

ガラス使用

No.3103/23

東京圖書館藏

左右近衛府

左右近衛府ハ、禁兵ヲ統ベテ至尊ニ侍衛シ、常ニ禁門ヲ警護スルコトヲ掌トル、大中小ノ朝會ニ、隊仗ヲ率ヰテ前後ヲ近衛スルガ如キ、亦本府ノ職トスル所ナリ、和名抄由介比乃豆加佐ト訓ス、由介比トハ、靫負ノ約言ニシテ、古代武官ノ稱ナリ、上代ハ、内物部アリテ宮中ヲ禁衛ス、降テ文武天皇制令ノ時、五衛府ヲ置ク、兵衛最モ重クシテ親近ノ衛兵タリキ、然ルニ元明天皇ノ朝、更ニ中衛府ヲ置テ大内ノ守衛ヲ掌ラシム、稱徳天皇ノ天平神護元年ニ至リ、授刀衛ヲ改メテ近衛トナシ、大將中將少將各一人將監將曹各四人、醫師一人、府生番長各六人、近衛四百人ヲ置ク、近衛ノ稱是ニ始マル、而シテ先キ

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2

ガラス使用

ニ置ク所ノ中衛ト、互ニ相對シテ大内ノ親衛タリ、平城天皇ノ大同二年ニ至リ、更ニ近衛ヲ改メテ左近衛ト為シ、中衛ヲ改メテ右近衛ト為ス、是ニ至リ始メテ左右近衛ノ稱アリ、尓後、衛門、兵衛ヲ稱シテ外衛ト云ヒ、本府ヲ称シテ天子ノ親衛ト為ス、而シテ位置常ニ四衛ノ上ニアリテ、威権最モ盛ナリキ、

大将左右各一人アリ、和名抄之ヲ加美ト訓ス、其ノ任甚タ重クシテ、名族ヲ以テ之ニ任シ、概子大納言以上大臣ノ兼任トナス、大臣ニシテ大将ヲ兼ヌルハ、文武ノ極官ヲ統ブル者ニシテ、以テ栄達ノ至極ト為ス、

中少将左右各一人ナリシガ、漸次増加シテ後白河天皇ノ保元元年、左右中少将各四人ヲ定員ト為ス、和名抄中少将共ニ須介ト訓ス、而シテ中将ヲ大助ト云ヒ、少将ヲ少助ト云ヘル事、源氏物語、空穂物語ヲ始メ、記録等ヲ散見セリ、中少将ハ朝會儀式ノ時、隊仗ヲ率ヰテ威儀ヲ張リ、凡テ殿上ノ事ヲ督察シ、諸社ノ祭使諸寺ノ佛會等ニ差遣セラレ、頗ル清望官クルヲ以テ、摂関ノ子男、或ハ藏人頭、辨官等ノ如キ、名族若クハ才名アル者ノ兼任ヲ為ス、

将監左右各四人アリ、和名抄之ヲ万豆利古止比止ト訓ス、即チ判官ナリ、後世ニ及ヒ増加シテ十数人ノ多キニ及ヘリ、諸大夫舞人等ヲ以テ之ニ任ス、

将曹左右各四人、和名抄之ヲ佐官ト訓ス、楽人舞人府生等ヲ以テ之ニ任ス、府生左右各六人亦同シ、

番長各八人、後世舎人ノ中上首ノモノヲ撰テ之ニ任ス、

祭使ニ従行シ、或ハ大将ノ前驅等ヲナス、

近衛又舎人ト云フ、即チ衛兵ナリ、平城天皇ノ大同二年左右近衛トナルニ及ビ、近衛各四百人ヲ以テ定額トス、其ノ後屢々増減アリ、延喜式載スル所左右各三百人トス、又員外舎人アリ、宇多天皇ノ寛平三年各貳百人ヲ置ケリ、然ルニ、後世制度大ニ頽廃シテ人員ニ制限ナク、舎人諸国ニ散在シテ凶暴ヲ恣ニスルニ至レリ、其ノ詳ナルコトハ、衛府通載ノ條ヲ参看シテ知ルヘシ、

和名類聚鈔五　職官部　職員令云、近衛府、由介比乃豆加佐、

職原鈔下　左右近衛府、當唐羽林、又云親衛、

續日本紀二十六　天平神護元年二月甲子、改授刀衛為近衛府、

日本紀略平城　大同二年四月己卯、中略。中近衛府者為左近衛、中衛府者為右近衛、

稱呼

唐名

改授刀衛為近衛

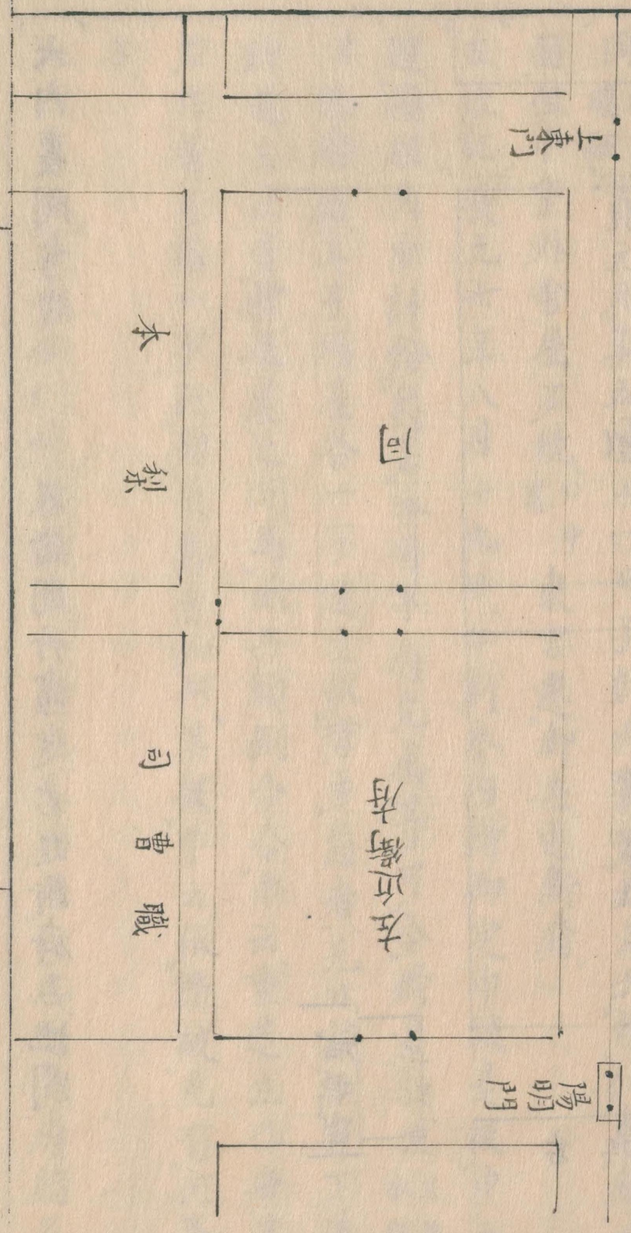
左右近衛

占地

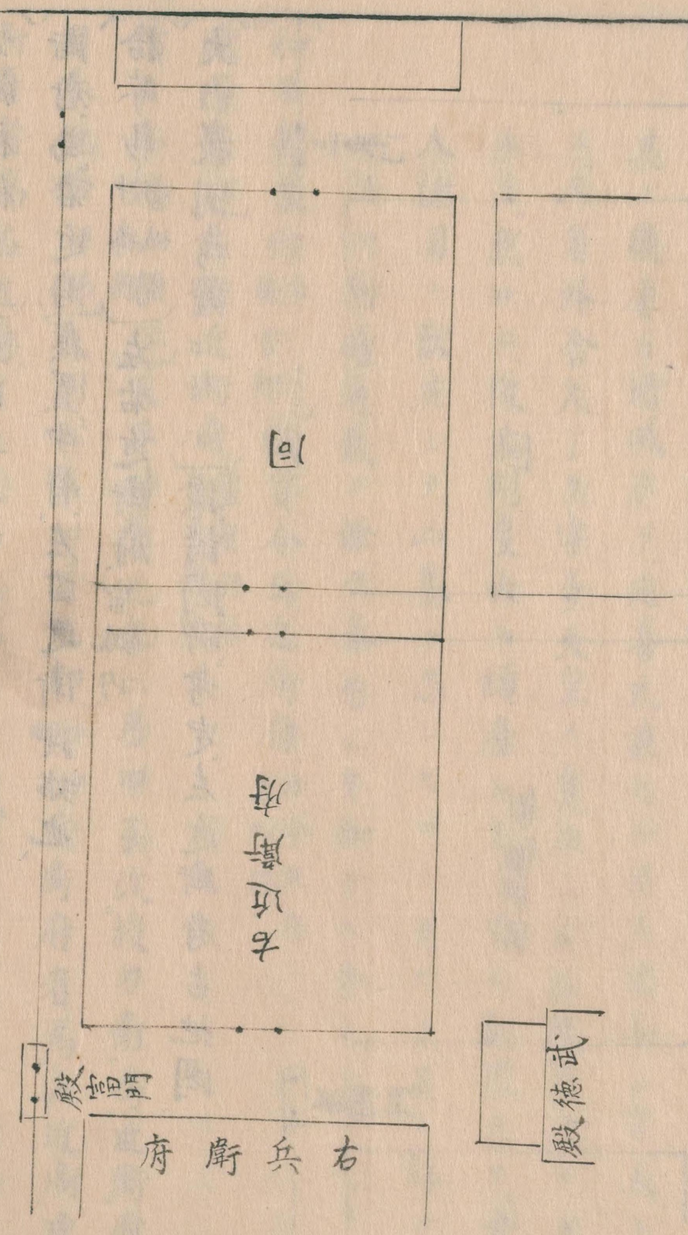
公卿補任平城　大同二年四月廿二日、改近衛府為左近府、復置中將、左右近衛此始也、

拾芥抄中末　宮城圖　左右近衛府、宮城内、

大内裏圖考證二十八　據諸圖所考定左近衛府占地圖、



大内裏図考證 二十八 據諸図所考定右近衛府占地図



正廳

日本紀略 五 冷泉 康保四年六月十日、○中略 以左近衛府正廳、為先帝御齋會行事所、

同 平城 大同二年十月辛巳、親王、○伊豫 遽奏宗成○藤原 勸已反之状、即繫宗成於左近府、

同 六 圓融 貞元元年五月十一日、子剋内裏有火、火出自仁壽殿西面、但中重外舍屋不燒、○中略 東宮遷御左近衛府、

左経記 長元七年八月十九日、午刻參内、諸卿定申被是被申云、随損破大少計給爵若本司本府允屬等可令修造歟、左 左異本作 右、近府廳、并弓場屋、各一字造立、依有申爵者、先日被下宣下、随新造立、欲葺檜皮屋之間、為風共顛倒、今令申云、重造立已無其力、作葺弓場一字、欲預栄爵者如何、其被申云、依請被免有何事乎、

江次第 三 左右衛門府手結事、射礼之前行之也、近衛府賭弓

前有真手結荒手結等於左近廳行也

東西倉

日本紀略 十一条 長徳元年六月廿一日、今日右近府廳、東西倉焼亡、○扶桑畧記同

近衛陣

同 二朱雀 承平三年正月廿三日、仰左右衛門兵衛府馬寮、結番毎夜令巡検之、今夕陽明門内近衛陣直大澤有春、為同府近衛小槻滋連被忿怒、於酒殿北辺以大刀被傷之、即逃去、有春僅存命、

大將曹司

新儀式 觸穢事 隔垣別門之所、雖同所不為穢、注云、左右近衛府大將曹司之類等也、

日本紀略 二朱雀 延長八年九月廿七日、先皇依不豫欲遷座朱雀院之間、大漸弥留、仍移坐右近衛大將曹司、○扶桑畧記同

續古今和歌集 哀傷 延長八年九月、右近府大將の曹司にいでませ給ひけふ時、女御更衣ふどまかるといふ侍りければ、うへのつかねの障子より書つけ侍ける、延木女御、

秋風にたくふこのそのいまはとて、おのかちりしなるそかなしき、

左大將宿所

日本紀略 六円融 天延三年四月八日、亥刻皇太子出御左近衛大將曹司、

右大將宿所

西宮記 臨時五 宿所 左大將宿所 在宣陽門内南廊、○拾芥抄同

同 臨時五 宿所 右大將宿所 在陰明門内南廊、

中將曹司

小右記 長和二年正月十日、于時大納言右大將予依有外記催可候中宮行啓、仍為令巻纓向宿所、北陣將宿所為予宿所、巻纓冠并弓着等兼遣宿所、於宿所経時到参飛香舎、

外記日記 天慶□年四月四日、左近衛府中將曹司、月来橘光子命婦、寄居其曹、下女早朝起見丈三四頭喫死童、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

北山抄 皇太子元服 應和二年七月、於傳家定御元服事、此日始行事所以左近衛府中將曹司為其処、

左右中將宿所

西宮記 臨時五 宿所 左右中將宿所 在玄暉門内東西、

少將曹司

日本紀畧 三 村上上 天暦元年二月十七日、今月四日、左近衛府少將曹司、犬咋入死人頭肩片手、仍彼府立三十日穢札、而御修法所童不知穢由、用件府井水、其穢交及内裏、有沙汰、被定七ヶ日穢、

同 七 円融下 天元三年十一月廿二日、○中略 女御遵子移左近衛府少將曹司、

河海抄 真木柱 曰、天暦御記云、依左大臣定申、皇太子移左近衛府、昨日遣齊先撿見、還来申、犬將曹司、中將曹司、共無其便、少將曹司屋頗雖短陋、自他屋有便宜、然則可令加修理彼曹司、

東京圖書館

左右將監宿所

西宮記 臨時五 宿所 左右將監宿所 在同宿所舍艮乾、

日本紀略 三 村上上 天暦二年三月廿七日、夜強盗入右近府曹司、掠取人物、

曹司屋長倉

同 四 村上下 應和二年六月廿五日、左近衛府長倉一宇、及曹司屋燒亡、

府庫

延喜式 四十六 左近衛 凡威儀及行幸所須器仗者、收於府庫、臨時出用、但甲楯不在此限、

長倉

小右記 長和三年三月十二日、府長倉射場舍火移撲滅畢、

下倉

古事談 六 毫宅諸道 伶人助元、助種文 依府役懈怠事、被召篭左近衛府下倉、此下倉ニハ、蛇驟ナル物ヲト怖畏之間、夜半斗大蛇出来其頂如祇園師子頭、其眼如銀提、其舌三尺計ニテ大口ヲアキテ云々、○又見古今著聞集六、

左近殿舍

長秋記 大治四年四月廿五日、賀茂祭也、○中略 供奉公卿摂政車

東京圖書館

内大臣大納言経実能実能俊中納言顕雅実行雅定実能参議長実輔下官従三位経忠等也、殿上侍臣基隆朝臣以下皆着衣冠自三條東行自洞院北行自近衛東行自高倉北行自一条更西行着西洞院軽幄所給御車立所引廻纐纈幔其東立五間幄儲公卿以下座南北二行用高麗端畳南北屋前引主殿班幔又南埒前引之其前切立松枝又切竹掩隠近辺小舎人隠左近殿舎是為隠破壊歟、

射場

延喜式 四十六 左近衛 凡大射人預前於本府射場教習正月十四日以前試定、

山槐記 保元四年正月十二日未刻着束帯着左近衛府於上東門下車入府北門并内面西門着弓場屋昇東沓脱、

右近馬場

伊勢物語 むかし右近のる場のひをりの日むかひにたてたりけふ車小安のかほ君下をたれよりそのかけ

見へけれど中将ふまはる男のよふにてやりける、

河海抄 左近馬場、一条西洞院、右近馬場、一条大宮也、

北山抄 七 野行幸、延喜廿一年北野行幸先御右近馬場供御膳本府献物、雖停諸司献物、号馬場所出穀粟聴之、五衛府給酒金屈庖為盃大瓠為酌行左右近府酒召三献上令行侍臣大将取勧王卿次将取杓給大将赤色御衣即着供奉之云云、

舎人町

文徳実録 九 天安元年八月辛卯右近衛舎人町火、

左近町

拾芥抄 中末宮城 諸司厨町、

左近四町 土御門南近衛北西洞院北堀川東

要劇田

類聚三代格 十五 太政官府、應割官田充諸司要劇并番上粮料事、大和国、左近衛府卅三町七段三百廿歩、右近衛府卅一町三段百八十歩、元慶五年十一月廿五日、

○節略

蓮池

同十五 太政官符、

合畠八町、○中略

三條一坊十町、

右一町近衛蓮池、

以前被右大臣宣偁、奉勅、件處永充二司、○勅旨省近衛府、以為園池、

延暦十四年正月廿九日

府地

日本紀略嵯峨 弘仁元年八月壬午、右京地一町賜右近衛府、

日本後紀二十一嵯峨 弘仁二年十月乙亥、大和国添上郡地二町賜左近衛府、

献地

續日本後紀十六仁明 承和十三年九月乙丑、參議從四位上和氣朝臣真綱卒也、故民部卿從三位清麻呂之第五子也、○中略為左近衛次將時、割留俸分兼添私物、買得摂津国良田、納之厨家、有簞醪投河之義、士卒補疲于今賴之、情切助公於焉可見、

年料藥種

延喜式三十七典藥 左右近衛府各卅七種、大黄蜀椒各二斤八両、

菖陸田

同四十五左右近衛 凡府菖陸田十町獲菖四千斤、営刈運賃并食料二月一日申官請受、町別営夫六十人、廝丁四人、夫日米二升、塩二勺、海藻二両、醬滓一合、糟三合、廝丁日米一升、二合、塩一勺、海藻一両、醬滓一合、糟三合、功銭駄賃臨時量定、駄別運菖十二斤、其鍬者町別二口、三年一請、但菖左府送左馬寮、右府送右馬寮、衛門兵衛各亦准此、

同四十五左近衛 幕卅條、絁十條、細布十條、調布十條、並廿年一度申官作換、

燒亡

外記日記一条 長保四年十月十三日、今夜戌刻、西京近衛御門、北小路町口西東燒亡、其火飛来右兵衛府廳屋上、同燒亡倉并雜舎、

日本紀略四村上 應和二年六月廿五日、夜左近衛府長倉一宇及曹司屋有火、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

同十三廿一条 万寿四年二月廿七日、右近府并図書寮雑舎等焼亡、
累代宝物皆為灰燼 ○又見百
同十三廿一条上 錬抄四
万寿四年二月廿七日、右近府並図書寮雑舎等焼
亡、累代宝物皆為灰燼、

顚倒

中右記 承徳元年八月五日、朝間雨大風、左近衛屋顚倒、
左経記 長元七年八月十日、九日大風 除左衛門之外、五衛府廳并穐
舎大膳掃部等舎屋皆以顚倒、

職員戝掌

職原鈔下 諸衛、
左右近衛府、
元者、近衛中衛也、平城天皇御宇大同二年、勅以近衛為左近
衛、以中衛為右近衛、唐朝殊重此職、統領諸宿衛禁軍故也、本
朝又為重任、
大将、

非譜第之華族者更不任之、多是大納言中譜第上臈任之、
於執柄息者起次第所任也、又多被任左也、至大臣帯之為
規摸、又中納言任之、於凡人者弥為眉目、参議時任之例、後
二條関白師通公也、非参議人任例、氏宗公也、近代不可有
此比量者歟、又任大将人其儀大略同大臣、只守位次着座
許也、其外内外作法不混餘人者也、

中将、

華族四位任之、執柄息若一世二世源氏中納言時兼之、凡
人兼之実朝公是也、非常之極欤清華之人参議時兼之中
絶家兼帯為無念之儀也、二位三位中将非大臣子若孫者
不任之、至二位中将者執柄息外希例也、五位時任之、執
柄息外不可然云々、英雄大臣息任之近代事也、非大臣子
孫任之、隆房卿等是也、其外強雖非英雄重代祥任家

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2
ガラス使用

有之、

少將、

五位殿上人中為譜第公達者任之、叙四位時去其職、但叙留者是殊恩也、近代毎人叙留、又四位後拜任又常事也、三位少將者執柄息常被任之、又藏人頭時為少將是古例也、又辨官兼之、公達中有才名人事也、近代殊執之、少納言兼任又希例也、

將監

六位諸大夫任之、五位時叙留随分執之、舞人樂人等任之、即又叙留定事也、然而諸大夫者執之是各守故実故也、六位侍任之、或執之、或不執之、凡者不打任事也、於叙留者更無其例、

將曹、

舞人樂人近衛舍人等任之、

府生、

同前、大將判授之、

番長、

近衛舍人中擇用之、

上皇執政、若給兵杖大臣、及左右大將必召仕之大納言大將不召仕府生、大臣大將以上召加府生也、

官位相当

職原鈔後附、左右近衛中將各四人、并十六人、宜為定数、其外闕不可載闕官帳、保元元年正月廿九日院宣、俊憲奉、

績日本紀二十六、称徳、天平神護元年二月甲子、改授刀衛為近衛府、其官員大將一人為正三位官、中將一人為從四位下官、少將一人為正五位下官、將監四人為從六位上官、將曹四人為從七位下官、○授刀衛部當參看、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2
ガラス使用

唐名

日本紀略 桓武 延暦十一年四月乙巳、勅近衛中衛両府大将元従四位上官也、去天平神護元年改為正三位官、宜依舊為従四位下官、

日本後紀 八 桓武 延暦十年四月辛丑、勅近衛府大将、元従四位上官、今為従三位官、又加中将一員。○又見類聚三代格五

大日本史職官志 四 云、按大将位階、大同以前、屢有陞降、其定為従三位者、疑在大同分左右府之時、然正史、残缺、諸書無明文、今不可考、

拾芥抄 中本官位唐名 近衛大将 左右、

親衛大将軍、羽林大将軍、千牛大将軍、

唐牙大将軍、

中将 親衛中郎将、羽林中郎将、親衛将軍、

千牛将軍、衛将軍亜相、羽林将軍、

少将 同上、今以中少将号亜将、次将親衛郎将羽林中郎将、又

羽林郎将、千牛郎将郎、

将監 衛長史親衛校尉、衛将軍長史、

錄事参軍、千牛長史、

任例

将曹 衛錄事、兵曹 府生 衛史、

騎賞、

近衛中少将本数十五人也、左右并定也、而久安比被定十八人、近年剰任繁多也、

官職秘鈔 下 左右近衛府 令外官 大将 大臣大納言撰其人任之、但摂政関白家嫡、雖中納言参議任之、多左非執柄子息、中納言兼任例、氏公常行、三位任例、氏公大業人任例、菅贈太政大臣依父讓任例、雅実兄弟相並例、清慎公九條右大臣、二條前太政大臣、頼宗入道、前太政大臣前関白、中将 有権官、四位少将轉之、執柄子息雖五位任之、至于中納言兼任之例、始自良相公参議兼帯能撰人、至于二位三位中将者非執柄子息、一世源氏者、不叙留之、而実能公始為三位中将、自爾以降多此例、参議後任例、隆綱能俊宗家大辨兼任例、能有非少将人任例、能季実季雅俊五位少将任例、始自能実少将 有権官侍従諸衛佐遷任之、又能撰人粗雖有例、諸大夫不任之、三位例 宇治前太政大臣、六條摂政、自廷尉佐任例、豊仲滋実、伊望仲宣、小野好古、自将監轉任例、有実辨官兼任例、済時伊周式部大輔兼任例、伊望文

章博士兼任例、管根叙四位後更任例、公通為通　舊例一府、中將一人、
少將二人、中古以降、中少將各二人、而一府八人例、始自承應二
年、又久壽三年、院宣云、自今以後、左中將四人、少將四人、右中將
四人、少將四人、并十六人、宜為定數、近来超過此員數畢、祖孫
為一府大中少將例、康平五、右大將賴宗少將師房少將雅実、父子為一府大
將例、寛治二、右大將顕房少將顕雅、兄弟左右大將相並例、嘉祥二、忠仁公良相公、兄弟為
一府大中將例、康和五、右大將雅実少將顕雅、兄弟為一府中將例、永保二、家忠経実、同三、経
実能兄弟為一府少將例、寛治元、国信顕雅家定、同信顕雅、承
任之、無官者不任之、但大臣子孫、并大將請必不然、或云、大將請猶可嫌無官
又自二分不任之、但有如舞人樂人近衛舎人、自將曹轉任之例、
又成功輩任之、或本府奏又有依公卿給任例、源雅　舊例一府
四人也、近代及十餘人、又為凡卑輩、將曹　樂人舞人近衛舎
人等為府生者、并大將諸府奏等任之、有自醫師任例、三島貞祥

〔任官勘例〕恭議兼大將例、
巨勢野足、　藤冬嗣公、
文屋綿麿、　藤吉野卿、
橘氏公卿、　源常行卿、
後二條殿、
大弁兼近衛中將例、
舒、　氏宗、
能有、　兼明、
道綱、
〔任官勘例〕
近衛大將大業人任例、
菅贈大相国、
散三位任大將例、

東京圖書館
東京圖書館
国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

氏公卿、
大將兄弟相並例、
清慎公與九條右丞相、
大二條殿與右大臣賴宗、
重盛與宗盛公、　公相與公基公、
非少將任中將例、
能季、　実季、
雅俊、
近衛中將為五位例、
始自能実、
三位少將例、
宇治殿、　忠家、
六條殿、　洞院殿、

藤忠嗣　前摂政忠家二男、
自將監轉任少將例、
有実、
辨官兼任少將例、
濟時、　伊周、
式部大輔兼任少將例、
伊望、
叙四品後更任少將例、
公通、　為通、
文章博士兼任少將例、
菅根、
〔公卿補任　淳和〕非參議大將例、
橘氏公天長十年正月七日叙從三位、三月廿四日兼右大將依

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

帝外舅也、

任大臣後兼左右大將例

中右記 元永二年正月六日、大臣後任左右大將人人、右大臣源光任右大將、内大臣藤通隆任左大將、内大臣藤通隆任左大將、内大臣藤師実任左大將、内大臣藤信長任右大將、左大臣源俊房任左大將、内大臣藤原忠通任大將、此外多大納言被成大將也、

兄弟任左右大將例

源平盛衰記 一 清盛我身ノ栄花ヲキハムルノミニ非ス、子孫ノ繁昌ハ、龍ノ雲ニ昇ルヨリモ速也、男ハ各誇官職、女子ハ取々ニ幸シケリ、長男重盛内大臣ノ左大將、二男宗盛中納言ノ右大將、三男知盛三位中將、嫡孫維盛四位少將、家門ノ繁昌子孫ノ栄花類モナク例モナシ、○中略 天平十二年正月始テ以参議兵部卿藤原豊成卿中衛大將ヲ置ル、宝亀四年大納言中務卿藤原魚丸、初テ兼近衛大將、大同二年四月改近衛府左近府

源氏中納言兼中將

トシ、中衛府ヲ以テ右近府トセシヨリ以来、兄弟左右ニ相並例、僅ニ四箇度也、文徳天皇御宇斉衡元年ニ、左ニ忠仁公良房冬嗣公二男、西三條右大臣良相公同五男、朱雀院御宇天慶八年ニ、左ニ清慎公実頼貞信公一男、右ニ九條右大臣師輔公同二男、後朱雀院御宇寛徳二年、左ニ大二條関白教通公御堂ノ二男、右ニ堀河右大臣頼宗公同三男、二條院御宇應保元年、左ニ中山関白基房公、法性寺関白二男、右ニ後法性寺関白兼実公同三男相並給ヘリキ、是皆摂禄ノ臣ノ公達ナリ、凡人ニトリテ無先例、偏ニ官位ヲ重ンシ賢才ヲ選シ故ナリ、況昔ハ殿上ノ交リヲダニ嫌レシ人ノ子孫ゾカシ、今ハ禁色雑袍ヲユリ、顕職温官ヲ経テ、父子丞相ノ位ニ至リ、兄弟将相栄ヲ並タタリ、末代トイヘ共不思議ナリシ事共ナリ、

中右記 元永二年十一月廿八日、披見聞書之處、三位中將初例也、

中將有仁、任權中納言兼源氏中納言

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

東京圖書館

中納言中將自昭宣公至當時内府七人、皆藤氏人也、

〔八雲抄 三十〕近衞大將、みかさ山 中少將同之、

ちかきまもりといふ、次將もおなじ也、大將とも可謂也、近衞なり、所謂同事也、源氏物語にはやけのちかきまもりをまとかくしの德身といへり、是貞人なり、 將軍をもはれきこえりふ、

〔後撰和歌集 雜二〕兼輔朝臣宰相中將より中納言になりて、又の年のりゆみのかへりだちのあるじし侍りけるに、かれ思ひを述ぶるついでに、 兼輔朝臣、

ふるさとの三笠の山は遠ながらこゑはむかしのうとからぬかな、

〔月詣和歌集 夏 戀〕物申ける女の、兵衞佐なりける人にかたらひつきぬときゝて遣しける、 參議通親、

柏木の葉もりの神のたゝれもや、三笠の山をとはすなるらん、

〔月詣集標註〕濱臣云、兵衞を柏木、大中少將を三笠山と異名する事ハ、後撰拾遺等の歌なとにもしばしばよまれたるを、顯昭法橋契沖阿闍梨なとくはしく云われたり、この三笠山は、通親公時に參議左中將にておはせしかはかくよまれたるなるへし、

左近衞大將

〔公卿補任 平城〕大同二年四月廿二日、右大臣正三位藤内麻呂近衞大將、詔改近衞爲左近大將、

右近衞大將

〔同 平城〕大同二年從三位勳二等坂上田村麻呂、 四月廿二日改中衞大將爲右近衞大將、

辭大將後參内

〔後二條關白記〕寛治七年十二月廿二日、大將辭申之後參内、無日時勘文、

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

任大將宣旨

台記別記 三十 長承四年二月二日、大納言殿。頼可令蒙任大將宣旨給、仍大殿渡御東三条殿、午刻許大納言殿令奉給、晩頭大納言殿令奉内給、擯擲御車、前驅六人、前甲斐守雅職、右京權大夫顯親、少納言雅国等扈従、御共口口参着右仗座、承宣旨、可任大將、可勤中日時之由先例也、

八日大納言殿令任右大將給、

平家物語 信頼信西不快事、

爰ニ近来權中納言、兼中宮權大夫右衛門督、藤原朝臣信頼ト云人アリキ、人臣ノ祖天津児屋根尊御苗裔、中関白道隆八代後胤、播磨三位季隆カ孫、伊豫三位中隆カ子ナリ、然レトモ、文ニモアラス、武ニモアラス、能モナク才モナシ、只朝恩ニノミ誇テ昇進ニカ、ハラス、父祖ハ諸国ノ受領ヲノミ経テ、年闌齢傾テ後、僅ニ従三位迄コソ至リシカ、是ハ近衛司、藏人頭、后宮宮司、宰相中將、衛府督、検非違使別當、此等ヲ僅ニ三箇年ノ間ニ経昇テ、年二十七ニシテ中納言右衛門督ニイタレリ、一ノ人ノ家嫡ナトコソ、加様ノ昇進ハシ給フニ、凡人ニ於テハイマタ如此ノ例ヲ聞ス、又官途ノミニアラス、俸禄モ猶心ノ儘也、角ノミ過分也シカトモ、猶不足シテ、家ニ絶テ久シキ大臣ノ大將ニ望ヲカケテ、凡ヲホケナキ擧動ヲノミシケリ、去ハ見ル人目塞キ、聞者耳ヲ驚ス、微子瑕ニモ過、安禄山ニモ超タリ、餘桃ノ罪ヲモ恐レス、只栄花ノ恩ニソ誇ケル、其比少納言入道信西ト云者アリ、或時信西ニ向テ、上皇。鳥仰ナリケル羽ハ、信頼カ大將ヲ望申ハ如何、必シモ重代清花ノ家ニアラサレトモ、時ニ依テナサルヽ事モ有ケルトソ傳ヘ聞召ト仰ラレケレハ、信西スハ此世中今ハサテト歎カシクテ申ケルハ、信頼ナトカ大將ニ成ナハ、誰カ望ヲカケ候ハサラン、君ノ。御

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

政ハ司召ヲ以先トス、叙位除目ニ僻事出来スレハ、上天ノ巍々ニ背キ、下人貶ヲウケテ、世ノ乱ルヽ端也、其例漢家本朝ニ繁多ナリ、サレハニヤ阿古丸大納言宗通卿ヲ白河院大将ニナサント思召タリシカトモ、寛治聖主○堀河御許サレナカリキ、況近衛大将ヲヤ三公ニハ列スレトモ、大将ヲハカケザル臣ノミアリ、執柄ノ息英才ノ輩モ此職ヲ前途トス、信頼ナトカ身ヲ以テ大将ヲケカサハ、弥奢ヲ究テ、謀逆ノ臣トナリ、天ノ為ニ亡サレ候ハン事、争カ不便ニ思召レテ候ヘキト諫申ケレ共、ケニモト思召タル御氣色ナシ、○節略

大納言兼大将位署

北山抄七 左近衛府、禁兵所属警巡斯重、凡殿上事、少将以上督察云云、大将従三位官也、従三位大納言兼大将者、舊例其署所大将従三位兼守大納言云云、近代所書従三位守大納言兼大将云々、可否未決、其家號等、不必書近衛字、

東京圖書館

中少将位次不同時着坐

世俗浅深秘抄上 中少将位次不同之時著座事、

一中将ハ位階之下﨟、少将ハ上﨟ナル時、着座府之役之時ハ、中将為上﨟始出居時依位也、五位中将四位少将同之、但先例有種々沙汰歟、

玉葉和歌集夏 惠橋をよませ給ける、龜山院法裝、

ますれはよ右のつかさの袖ふれし花立ちふやしこの日

ならん、

新千載和歌集四秋上 秋の中ふ、左近大将冬通、

いのきしけき内階の秋の月も、こゝろちのきゆのまれ身

ふつかふとて、

新後拾遺和歌集二春下 文保三年百首歌なりける時、

前大納言為定、

せめてこりちあれまも里の程さにを内階の様ちらさまを

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

中少將員外官權官

將監

称將監云政人

醫師

りふ、

〔續日本紀 二十六稱德〕天平神護元年二月丙寅、以從四位下牡鹿宿禰島足爲近衛員外中將、

〔同 二十八稱德〕神護景雲元年八月丙午、外從五位下丈部直不破麻呂爲下總員外介、近衛員外少將如故、

〔類聚國史 百九十桓武〕延曆十九年十一月庚子、遣征夷大將軍近衛權中將陸奥出羽按察使從四位上兼行陸奥守鎮守將軍坂上大宿禰田村麻呂、檢校諸國夷俘、

〔寬平御遺誡〕左右近衛將監叙位事、追昔例、左右遞隔年叙之、而今叙位之事、不必每年、宿衛之勤殊倍他府、始自舍人至判官、署積四五十年殆難待其運、令須復近代之例、每有儀式之叙位、左右共叙之、將勵宿衛之人、新君慎之、

〔江次第十八上〕陣覽内文儀、上卿召曰近衛司大將者称政人戸將監在陣座称唯參進候小庭、

〔延喜式 十二中務〕時服、左近衛府四百廿五人、醫師一人、

按スルニ、〔職官志 五〕ニ醫師據衛門兵衛等醫師視之、此亦正八位官、中務式一人、但未詳其置何世、ト云ヘリ、然ルニ〔享祿本類聚三代格 四〕天平神護元年三月二日、近衛府官員ノ官位ヲ定ムル条ニ、醫師一人トアレバ、蓋シ初メヨリ置レシモノナルベシ、

府生史生

〔同 二十八兵部〕左右近衛府府生各六人、左右衛門府左右兵衛府各四人、左右馬寮馬醫各二人、史生各四人、但六衛府府生并馬寮馬醫史生待宣旨、補任、自餘省補之、

〔同 二十八兵部〕凡諸衛府生已上新補任者、省具錄移本司、奏聞然後帶仗、但舍人本府奏聞補之、不待省移帶仗、其左右馬寮兵庫寮史生已上補任之後、省移本司、即令帶仗、自餘雜任本衛判帶、

〔同 四十一彈正〕凡侍醫近衛府生以上、并檢非違使等者、並除節會之外、不必著朝服、申諸司政之日、不在此限、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

府生

〔同 四十一 彈正〕凡諸衛府生以上（左右馬寮准此）除衛仗日之外、皆著靴、但著布帶時、須用麻鞋、

〔山槐記〕永暦元年八月十七日、府沙汰人大石光竪稱大將御使來云、番長中臣季近可為府生之由可仰下者、明後日可有拜賀云々、仍件男可為官人云云、即仰光竪了、

〔同〕永暦元年十二月廿六日、今日大將可有着陣、（○中略）先入敷政門代、於宣仁門代邊問殿上時、府生大石光竪歸來云已二點者、（告時兼令覺悟光竪也）次予進着端座、（北向着之、大内可當戸中央云云）次光竪入日奏於笞置予右邊、（座下方也）次置硯、予東向居直開見日奏書名字、如元卷之返給、次進移文見了、

〔同〕永暦元年十一月十七日、戌刻着束帶（縫腋、夾纓、懸緌、帶劍、相具壺、胡籠）參内今夜中和院行幸也、召府廳頭大石光竪相尋小忌、即持來、於小板敷（着）之、（着次第具見去年記）次負壺取弓、

〔延喜式 四十五 左右近衛〕凡番長八人、

按スルニ、〔標註職原鈔校本 下之 末〕ニ、番長ハ近衛舍人の中にて上首八人を補ふと見エタリ、

〔同 四十五 左右近衛〕凡長上番長近衛不得預他事差遣、

〔後撰集 二 春中〕壬生忠岑ヵ左近乃はがひのをさまそふみおこせそ侍りける御いそに、身をうらみて侍りける返事に、紀貫之、

ふまぬとていそくれわびそ春雨のしぐにやむへきそのあらしなくに、

〔拾遺集 八 雜上〕二条右大臣、左近番長佐伯清男をめして歌よませ侍りけるを、のそむこと侍りけるか、かなひ侍らざりける比よそよみ侍りける、

かきりなき洞の霧にむすはれて人のあもとはなるにやあ

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

東京圖書館

るなるらん、

〔新勅撰和歌集 雜二〕けまよまいりて、大ぬまて年久なりぬる
ことを、心のうちに思ひつゝけはける、内大臣、
わきれめやつゞひのおきそ我さねどてゝわこるみをしに白
ふくもなし、

按スルニ、番長ハ大将等ヲ前駈ヲ為スモノタル事本歌ニ
テ明ナリ、

近衛

〔延喜式 四十五左右近衛〕近衛六百人、

〔同 四十五左右近衛〕凡擬近衛者、預擇定便習弓馬者、入色卅人已下、白
丁十人已下、修奏進内侍、奏訖即遣勅使試其才藝、騎射一尺五
寸的、皆中者為及第、歩射卅六歩十箭、中的四已上者為及第、若
一箭不中皮者、以二的准折、

〔同 二十八兵部〕凡近衛兵衛者、本府簡試、省并式部位子留省勲位等

東京圖書館

便習弓馬者、奏聞補之、若蔭子孫情願者亦准此、其外考及白丁
異能者、京職諸國具状申送官、官下衛府試之、並得及第、具録奏
聞、若目進者亦准此、即遣勅使覆試、及第同署更奏然後補之、其遭喪解
任、服闋願仕者、本府奏聞、訖副奏文以移送省、

〔同 四十五左右近衛〕凡近衛武藝優長性志耿介、不問水火、必達所向、勿
顧死生、以一當百者、號為異能、兵衛准此、其録及餐法見兵部大膳等式、

〔同 二十八兵部〕凡武藝優長性志耿介、不問水火、必達所向、勿顧死生、
一以當百者、並給別禄、左右近衛各十二人、左右兵衛各四人、別
春夏絁一匹、調布二端、秋冬絁二匹、綿二屯、調布二端、並准季禄
日数給之、又月別白米一石、塩一斗、長上十三日、番上十日以上
給之、

〔同 十八式部上〕凡左右近衛長上十五年、番上廿年為限、毎年各二人、
左右兵衛各一人、左右衛門隔年各一人、任諸國史生、其任郡領

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

者、左右近衛各二人、左右兵衛各一人、待本府移勘錄譜第、奏擬文之日、副奏文進、諸衛同之、但左右兵衛通任郡領及主政帳、左右衛門若有移送府別郡領一人、隔三年補之、並以佐已上共署文任之、

伏部

同四十一彈正 凡衛府舍人刀緒、左近衛緋絁、右近衛緋纈、

同四十二彈正 凡聽左右近衛兼雅樂伎才長上者、令中帶劔把笏、

享祿本類聚三代格四 太政官符、應定諸司使部事、近衛府廿人、延曆十四年七月十日、○事具衛士府

近衛定員

日本後紀十七平城 大同三年七月壬寅、左右近衛及左右兵衛等府、近衛兵衛元各四百人、今定各三百人、○衛門府衛士府部當參看

同二十一嵯峨 弘仁元年十二月癸巳、詔曰、天文垂象、鉤陣列衛於紫微、地理分區、金石効用於綱錄、除兇禁暴、七德照其威、靜乱禦侮、四海服其武、弧矢之用焉自往昔、甲兵之儲匪獨茲日、今左右近衛

其數減少、脫有機警、何以應卒、一張一弛、文武之道所先、觀時適時、廢置之宜斯在、其左右近衛可復舊數焉、○又見享祿本類聚三代格四

同二十一嵯峨 弘仁二年六月乙丑、令諸國進武藝人年卅已下、補左右近衛、

同二十二嵯峨 弘仁三年九月乙丑、右大臣從二位兼左近衛大將藤原朝臣內麻呂、中納言兼右近衛大將從三位勳三等巨勢朝臣野足等上表曰、臣聞鉤陳六位、環北極以分輝、衛尉八屯、居西京而警夜、誠以紫宮清切、周衛無虧、黃屋尊嚴、不虞是備、夫左近衛元是依數長直、職掌既重、儀式亦殊、晝夜警護、不離禁中、常見宮省之事、悉知出入之人、大同之年、為左右府、即停長直、一從番上、自茲上番下番、遞去遞來、苟守當番之直、不顧長久之法、坐作進退、稍忘其儀、伏惟皇帝陛下、道高萬古、功邁百王、漢光之懸制戎規、何能語美、魏武之切言兵略、未足稱奇、臣等猥以庸虛、得預簪

東京圖書館

舍人

綏、職司宿衛、身統禁兵、伏望左右近衛府、府別簡其驍勇者五十人、依舊長直、自餘相副、亦令番上、許之、○又見享祿本類聚三代格四

〔續日本後紀八仁明〕承和六年八月庚戌朔、左近衛府言、補近衛事、春宮坊、皇后宮、中宮舍人、内匠、木工、雅樂寮考人等、並是内考至有才能、府自試、補而今兵部省勘返云、大同元年格偁、蔭子孫式部、兵部、散位、位子、留省、勲位等之類、聽本府試補、外考白丁者、勅使覆試、然後補之、件人等非格所指、須准外考白丁、勅使覆試者、其三宮舍人并雜勘籍人已豫内考、何准白丁、又格舉大例、不勞細色、而兵部省偏執格文、還乖舊貫、太政官處分、便弓馬者因循舊例、本府試補之、

〔今昔物語集二十七〕近衛舍人於常陸國山中詠歌死語第卌五

今昔□□ノ比□□ノ□□ト云近衛舍人有ケリ、神樂舍人ナトニテ有ルニヤ、歌ヲソ微妙ク詠ル畧○下

〔職官志五〕按職原鈔云、番長者近衛舍人中撰用之、所謂近衛舍人即近衛、舊是中衛之類、故稱舍人、因知其人所出、亦内舍人大舍人及近衛之色、

〔今昔物語二十七〕狐變女形、値播摩安高語第三十八、

今昔播磨ノ安高ト云フ近衛舍人有ケリ、右近將監貞正ガ子也、法建院ノ御隨身ニテナム有ケル、

〔續古事談五諸道〕近衛舍人ハ、矢ヲグストイヘトモ、武勇ニハヲヨハヌモノナリ、宇治殿ノ御隨身ニ四郎先生行武トイフモノアリケリ、馬ヌス人ヲトラヘテ殿ニ井テ參リケレハ、御隨身ハ、近習ノモノナリ、カヤウノ事ケゲカヽラズトノ給テ、ハカハカシク沙汰ナカリケレバ、イツトナクカラメヲキテヤミニケリ、

按スルニ、當時在京ノ武官職掌其實ニ有ラザル事此一事

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

ニ據テモ察スベク、又兵権ノ下ニ移レル時勢ヲモ思フヘキ也、

員外舍人

享祿本類聚三代格 四 太政官符、

應定諸衛府員外舍人數事、

左近衛府二百人、古近衛府准此、左衛門府一百人、右衛門府准此、

左兵衛府二百人、右兵衛府准此、

右左大臣宣、奉勅、件府近衛門部、兵衛等數、載在格條、而頃年之間、據異能供節要籍駈使等事、毎府申請、補任之漸、殆倍本數、論之政途、理不可然、自今以後、宣依件定之、

駕輿丁

殿上行事

同 四十五 近衛 凡裝束紫宸殿、少將將監相共行事、凡殿上之事、

少將以上督察、

侍中群要 十 殿上作事、近衛司帶劔候或召將監帶弓箭候、地下將監候長橋上、

閤門

延喜式 四十五 左右近衛 凡閤門者、將曹一人率近衛八人開閉、五人閤門、三人開腋門、

開門

行夜

同 四十五 左右近衛 凡行夜者内裏官人一人、近衛一人、起亥一剋、迄子四剋、但右起丑一剋、迄子二剋、

侍中群要 四 夜行事、毎夜新藏人令問諸陣、見參差小舍人遣之、

亥子剋 左近、丑寅剋 右近 但雨雪夜不廻、

中隔夜行、兵衛廻之、大場靱負廻之、藏人豫加催、但非毎夜事也、

源氏物語 桐壹 とゝし火をりゝぶ法くしておきおそしまた、

右近のつりさ北との井中のこゑ聞ゆるハうしよおそぬる

笑づし、

ニ標テモ察スベク、又兵権ノ下ニ移レル時勢ヲモ思フヘキ也、

員外舎人

〔令禄本類聚三代格四〕太政官符、

應定諸衛府員外舎人數事、

左近衛府二百人、右近衛府一百人、右兵衛府一百人、左衛門府一百人、右衛門府准此、左兵衛府二百人、右兵衛府准此、

右左大臣宣、奉勅、件府近衛門部、兵衛等數、載在格條、而頃年之間、稍異能供節要籍駈使等事、毎府申請、補任之漸、殆倍本數、論之政途、理不可然、自今以後、宜依件定之、

寛平三年十二月十五日

〔延喜式四十五近衛〕駕輿丁百一人、二人駈隊正一人火長一

按スルニ、此ハ左近衛ノミナリ、右近衛亦之ニ准ス、

駕輿丁

〔同四十五左右近衛〕凡近衛駕輿丁直丁等月粮米塩、毎月請受、唯漬菜料塩春秋請之、〔儀式、餘府准此、〕凡近衛駕輿丁禄物粮米府惣請取班給、其不仕料并節服及青摺衫大衣駕丁装束等、破之物、並充府中雑用、兵衛亦同、

〔同四十五右近衛〕凡駕輿丁百人、隊正二人火長十人、衣服料、夏隊正火長各庸布一段、丁別商布一段、冬隊正火長各庸布二段綿三屯、丁別商布二段綿三屯、

按スルニ、前ニ引ケル文ニ駕輿丁百一人トアルハ直丁一人ヲ加ヘタルモノナリ、

殿上行事

将監候橋長

〔延喜式四十五右近衛〕凡閤門者、将曹一人率近衛八人、開門、五人閤門、三人閤門、腋門、

行夜

〔同四十五右近衛〕凡行夜者、内裏官人一人、近衛一人、四更一剋、一剋、一剋、初更一剋、二更一剋、三更一剋、四更一剋、五更一剋、

〔侍中群要四〕夜行事、毎夜差新蔵人、令巡検諸陣、

戌子剋左近、丑寅剋右近、但雨雪夜不廻、

中隔夜行、兵衛廻之、大場勅負廻之、蔵人豫加催、但非毎夜事也、

〔源氏物語桐壺〕とゝ火をとりつゞけておきおそしまでも、

右近のつりさぶらひの弁中のこゑ名聞ゆるいうしよあをぬるまでし、

帝国図書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2

ガラス使用

雷鳴陣

源氏物語奥入 亥一刻左近衛夜行、官人初奏時、㕮子刻丑一刻
右近衛宿申事至卯一刻、内堅亥一刻奏宿簡、
延喜式 四十五 左右近衛 凡着督二人簡近衛性識強幹者充之、左右相
交作二番、每日一番候内裏、一番巡察京内非違、其馬察充之、永
置本府騎用、飼見馬
同 四十五 左右近衛 凡大雷時左右近衛陣御在所、又左右兵衛直參入
陣紫宸殿前、内舍人立春興殿西廂、不必待闇司奏、
西宮記 六月 雷鳴陣、
大将已下帶弓箭、候御前孫庇、大臣弓箭不着、大将帶綬額門左右大将北右南
西上左自北昇右大将自南着大将下云、将監無下妨雨屬時以圖座為大将座、兵
衛立南殿簀前時、召加御劔、敷雷鳴御座、鳴戚時分陣遣后殿外衛督
佐候殿上者帶弓箭候簀外、
解陣、大将召左将監名簡唯、置笠西面立庭中、召右如左儀、大将
仰云、陣解、外将監等簡唯、左召大殿、昇二音簡唯、仰云、下机次

奏近衛歷名

右如左孫庇前、将監等立本府南門、衛府帶弓箭、近衛出、次将出無大将者他上卿之座
左卿者内侍仰左中将解陣、召奏
同 六月 延喜四年四月七日、此日自朝迄雷密雨、左大臣奠大将
時右大将圖定參上列陣如例、又召左右兵衛督佐等侍之兵衛上
殿着差左少将元方奉入仁和寺及未終頗止左右解陣取諸陣
是參暫雷電又甚父近衛列立差左少将忠相左右近衛各十人
奉入仁和寺及酉刻左大臣行解陣事云云、
同 六月 天徳四年正月二十四日、除目儀間雷鳴左右大将帶弓
箭候御前座、但陣不立云云、故延光朝臣言私記、
同 六月 昌泰三年閏六月二十九日、申一刻雷電陣列如常、左右
大将各有障不參、酉刻左中将仲平奉内侍宣行解陣事、則遣使
於諸陣、為勅計也、訖神祇官供奉恒例御贖物、
延喜式 四十五 左右近衛 凡每月一日十六日、具録當番近衛歷名、次官

己上奏進、儻無者判其宿衛者、日別錄見宿數、次官以上一人署名申送、闈司惣取奏之、餘府准此、

大射

同四十五左右近衛 凡大射人、預前於本府場、教習、正月十四日以前試定、其歷名預移兵部省、官人二人著皁綾緋襖、白布帶横刀弓箭、緋胖巾麻鞋、近衛廿人、府生若預射手在下亦准此、白綾末額緑襖白布帶横刀弓箭白布胖巾麻鞋、其後參官人二人、近衛十人、

行幸供奉装束

同左右近衛 凡供奉行幸、大將以下少將以上、近衛遠國時屬旅行著皁綾横刀弓箭行騰草鞋、幸近衛著靴除行騰、將監以下府生以上並著皁綾布衫白布帶横刀弓箭行騰麻鞋、幸近衛以蒲胖代行騰、將監以下府生以上並著摺布衫白布帶横刀弓箭行騰麻鞋、幸近衛以蒲胖代行騰、近衛皁綾青布衫白布帶横刀弓箭蒲胖巾麻鞋、騎射已上及近衛著五人、自餘府生已下在此中、皆用騎射、少將以下騰馬、

祭使

同左右近衛 凡諸祭供走馬者、春日社使少將已上一人、議、帶者參不參

奏音樂

儻同、賀茂近衛十二人、大原野社將監一人、近衛十人、大神社將監一人、近衛十人、賀茂社少將已上一人、近衛十二人、近衛十二人、二人先參松尾社供走馬、並每祭左右、廋供之、其裝束預奏、請受帙藏式、

續日本後紀仁明 承和二年七月甲辰朔、天皇宴群臣於紫宸殿、左右近衛遍奏音樂、勅令四位已上開襟、至夕宴罷賜祿有差、

續日本紀仁明 承和二年十二月辛未朔、天皇御紫宸殿、賜群臣酒、數中左右近衛府遍奏音樂、既而賜見參親王以下五位已上祿各有差、

三代實錄清和 貞觀三年七月廿六日、帝御前殿觀相撲、左右近衛府奏音樂、

同陽成 元慶四年七月廿九日、晦、御仁壽殿、覽相撲、左右近衛府遍奏音樂、散樂雜伎各盡其能、出内藏寮絹一百匹、賜相撲人各一匹、右近衛内藏富廷長尾米継伎善散樂、令人大咲、所謂島

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2

ガラス使用

雜載

滸人近之矣、

〔台記別記〕長承四年二月十七日、大將殿始可令着陣給、畧○中

右近衛府移主計寮、

納畢米參佰斛伏○狀、畧狀、

右播磨國當年大粮米、相加精代雜貨祈納畢如件、以移、

長承四年二月十七日、府生惟宗、

權中將藤原朝臣、

以此文號納畢、移令着陣給之後所請印也、年預中將加判、

件二通文經御覽聞食子細返給之、

〔知信朝臣記〕保延元年二月十七日、大將殿始可令着陣給、畧○中

右近衛府移主計寮、

納畢米參佰斛狀、

右播磨國當年大粮米、相加精代雜貨所納畢如件、以移、

長承四年二月十七日、府生惟宗、

權中將藤原朝臣、

以此文號納畢、移令着陣給之後所請印也、年預中將加判、

〔玉海〕治承四年十一月八日、入夜右近府持來旬番奏簡、大將加名字返給了、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

附 授刀舎人寮 授刀衛併入

授刀舎人寮ハ、或ハ畧シテ授刀寮トモ、天子親衛ノ舎人ヲ掌トル所ナリ、元明天皇ノ慶雲四年始メテ此ヲ置ク、其ノ後本寮ヲ廢シテ其ノ舎人ヲ諸衛府ニ分屬セレム、孝謙天皇ノ天平勝寶八年授刀舎人ノ考選賜禄名籍等悉ク中衛府ニ屬シ尚授刀舎人ノ名ヲ存ス、其ノ数四百人ヲ以テ定員トス、然ルニ淳仁天皇ノ天平寶字三年ニ至リ、更ニ授刀衛ヲ設ケ督佐大尉少尉各一人大志少志各二人ヲ置キ舎人ヲ摠括セシム、稱徳天皇ノ天平神護元年ニ至リ本衛ヲ改メ近衛府ト為ス、

〔續日本紀四元明〕慶雲四年七月丙辰、始置授刀舎人寮、

撥スルニ、〔蒲生氏職官志五〕ニ、蓋授刀舎人寮或略称授刀寮、又其称帯劔、義同ニ授刀、此臨時所置、是以、其官若無定名、亦不

東京圖書館

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2　　ガラス使用

有定員トアリ、

同（八元正）養老五年十二月辛丑、太政官奏、授刀寮及五衛府別設鉦鼓各一面、便作將軍之號令、以為兵士之耳目、節進退動靜、奏、可之、

長官

萬葉集（六）神亀四年春正月勅、諸王諸臣子等散禁於授刀寮、時作歌（歌畧）、

續日本紀（八元正）養老四年八月甲申、詔、以新田部親王為知五衛及授刀舍人事、

同（四元明）和銅元年三月丙辰、以從五位下小野朝臣馬養為帶劔寮長官、

令集解（廿九衣服）養老六年二月廿三日格、（畧）中從三位行授刀頭藤原朝臣房前上意見、

授刀助

續日本紀（八元正）養老四年三月丙辰、以中納言正四位下大伴宿禰旅人為征隼人持節大將軍、授刀助從五位下笠朝臣御室為副將軍、

醫師

同（八元正）養老四年正月庚辰、始置授刀舍人寮醫師一人、

帶劔舍人

同（五元明）和銅四年十月甲子、勅、依品位始定祿法、（畧）中帶劔舍人等並絲二絇錢十文、

按スルニ、帶劔舍人トハ、蓋シ授刀舍人ノ事ナルベシ、

授刀資人

同（六元明）靈亀元年七月壬辰、授刀舍人狛造千金改賜大狛連、

同（八元正）養老四年三月甲子、有勅、特加右大臣正二位藤原朝臣不比等授刀資人三十人、

（續日本紀考證四）案、授刀資人即授刀舍人、蓋取諸授刀寮、称曰帶刀、其義亦同、是特所以優異寵臣、別勅賜之、猶舍人新田部二親王賜內舍人大舍人衛士之類、故賜之無定員、而令條不載也、

東京圖書館

同（八元正）養老五年三月辛未、勅、給二右大臣從二位長屋王帶刀資人十人一、其考選一准二職分資人一、

同（九元正）養老六年閏四月乙丑、太政官奏曰、望請陸奥按察使管内百姓庸調浸免、其國授刀、兵衛、衛士、皆悉放還、各從二本色一、若有二得考者一、以六年爲叙、一叙以後自依二外考一、

同（九元正）養老七年十月乙卯、授刀舍人賜禄有差如節、

同（十聖武六）天平十八年二月己丑、改二騎舍人一爲二授刀舍人一、

（蒲生氏職官志五）騎舍人未詳置何世、蓋今改二其職一入二名籍於授刀舍人一、而授刀舍人不復言二其寮一、則寮已廢、以二其舍人隷之諸衛府一、猶如二衛士分配三府一歟、

同（十孝謙九）天平勝寶八歳五月乙亥、勅曰、左衛士督從四位下坂上忌寸犬養、右兵衛率從五位上鴨朝臣虫麻呂、其所二從授刀舍人二十人一、増二位四等一、七月己巳、勅、授刀舍人考選賜禄名籍者悉

屬二中衛府一、其人數以二四百一爲限、闕即簡補、但名二授刀舍人一勿レ爲二中衛舍人一、其中衛舍人亦以二四百一爲限、

（蒲生氏職官志五）神龜置二中衛一之日、有二三百人一、至レ此、限以二四百一、與二授刀舍人一、都爲二八百人一、授刀舍人已無レ寮、則無二復其長官一可レ適從一、故姑屬二中衛一、仍名二授刀一、以別二於中衛一、而其隷諸衛之府、依二舊、但名籍輸二中衛一、以統焉、

同（廿二淳仁）天平寶字三年十二月甲午、置二授刀衛一、其官員、督一人、從四位上官、佐一人、正五位上官、大尉一人、從六位上官、少尉一人、正七位上官、大志二人、從七位下官、少志二人、正八位下官、

（蒲生氏職官志五）天平寶字三年十二月、又置二授刀衛一、其前有二授刀舍人一、隷二諸衛之府一、莫レ有二適屬一、今授刀衛蓋總二其舍人一者、特不レ曰レ府而曰レ衛也、

同（廿五淳仁）天平寶字八年十月癸未、以二授刀少將從四位下牡鹿宿

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2
ガラス使用

東京圖書館

少尉

將曹

禰島足為兼相摸守、畧○中式部大輔、勅旨負外大輔、授刀中將、從四位下粟田朝臣道麻呂為兼因幡守、

〔同 淳仁廿五〕天平寶字八年九月乙巳、太師藤原惠美朝臣押勝逆謀頗泄、高野天皇遣少納言山村王、收中宮院鈴印、押勝聞之、令其男訓儒麻呂等邀而奪之、天皇遣授刀少尉坂上苅田麻呂、將曹牡鹿島足射而殺之、押勝又遣中衛將監矢田部老、被甲騎馬且劫詔使、授刀紀船守亦射殺之、

〔同 桓武廿七〕延暦二年正月乙酉、正四位上道島宿禰島足卒、島足中○畧寶字中任授刀將曹、八年惠美訓儒麻呂之劫勅使也、島足與將監坂上苅田麻呂、奉詔疾馳射而殺之、

〔同 淳仁廿二〕天平寶字三年十一月壬辰、勅、益大保從二位藤原惠美朝臣押勝帶刀資人廿人、通前卌人、

〔同 淳仁廿四〕天平寶字六年五月丙午、賜太師正一位藤原惠美朝臣押勝帶刀資人六十人、通前一百人、其夏冬衣服者官給之、

〔同 淳仁廿五〕天平寶字八年九月戊申、以太宰員外帥正二位藤原朝臣豊成、復為右大臣、賜帶刀四人、

〔同 称德三十〕神護景雲三年十月乙未朔、詔曰、畧○中復勅之久朕我東人尓授刀天侍留之年事波汝乃近護止之天護延與止念天奈毛在、是東人波常尓云久、額尓方箭波立止毛背波箭方不立止云天君乎一心乎以天護物曾、此心知天汝都可弊止勅比之御命乎不忘、此狀悟天諸東國乃人等謹利之未奉侍礼、

〔續紀歷朝詔詞解五〕東人尓授刀天とあるハ授刀舍人なるべし、さてその授刀舍人ハ凡て東國の人のことを補せられとる歟、はた授刀舍人の中に東國の人なるをえりて侍ハしめ給へるか、さるこまかなることハ知おこし、近護止之天授刀衛を改めて近衛府とせられしも、此官をとより近

東京圖書館

き護なりしの故なり、

〔令集解 廿三 禄〕天平寶字三年格云、授刀舍人、兵衛等有位鍫十口、今准二口、无位五口、今准一口、

〔續日本紀 廿三 淳仁〕天平寶字四年十一月丙申、遣授刀舍人春日部三関中衛舍人土師宿禰関成等六人於大宰府、就大貳吉備朝臣真備、令習諸葛亮八陣孫子九地、及結營向背、

〔同 二十六 称徳〕天平神護元年二月甲子、改授刀衛、為近衛府、

東京圖書館

附 中衛府

中衛府ハ、禁中警衛ノ事ヲ掌トル所ナリ、聖武天皇ノ神亀五年、始メテ本府ヲ設置シ、大將、少將、各一人、將監、將曹、各四人、將曹、府生、番長各六人、中衛三百人ヲ置ク、其ノ位置常ニ諸衛ノ上ニ在リ、專ラ禁中警衛ノ事ニ任ス、稱徳天皇ノ天平神護元年、授刀衛ヲ改メ、近衛府ト為スニ及シテ、本府亦是レト相對シテ禁中ノ親衛タリキ、然ルニ、平城天皇ノ大同二年ニ至リ、更ニ近衛府ヲ改メテ左近違府ト為シ、本府ヲ改メテ右近衛府ト為ス、猶左右近衛府ノ條ヲ參看スベシ、

初置中將衛

〔續日本紀 十 聖武〕神亀五年八月甲午、勅、置中衛府、大將一人、從四位上、少將一人、正五位上、將監四人、從六位上、將曹四人、從七位上、府生六人、番長六人、中衛三百人、號曰來舍人、使部已下亦有數、其職掌常在大内、以備

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2　ガラス使用

周衛事、並在格、

按スルニ、號日本舍人ハ古本號曰東舍人ニ作レリ、蒲生氏ノ職官志ニ、按稱日來舍人者、以其所新置、故對故有內舍人大舍人、而言也トアリ、

職員弩

〔同 淳仁 廿一〕天平寶字二年八月甲子、大保從二位兼中衛大將藤原惠美朝臣押勝等、奉勅、改易官號、中衛府鎮國之衛、且此為先、故改為鎮國衛、官重位卑、故大將為正三位官、改曰大尉、中將為從四位上官、曰驍騎將軍、員外少將為正五位下官、曰次將、○中略

〔同 淳仁 廿五〕天平寶字八年九月丙辰、勅、逆人仲麻呂執政奏改官名、宜復舊焉、

官位相當

〔享祿本類聚三代格 四〕□□府、

大將一人、從四位 中將一人、從四位 少將二人、正五位下官、

將監四人、從六位上官、 將曹四人、從七位 醫師二人、 府生

六人、 番長六人、 中衛四百人、 使部卅人、

□□□□□□府置常在大內、以備周衛、其考選祿 文闕

按スルニ、本文欠失シテ年月ヲ詳ニセズ、然レ共中衛ノ舍人ヲ四百人トセルヲ以テ見ルニ、天平勝寶八歲以後ノ事ナルベシ、如何トナレバ孝謙天皇天平勝寶八歲七月中衛舍人ハ四百人ヲ以テ定額トセラレタレバナリ、

大將

〔公卿補任 聖武〕天平二年十二月三日、參議正三位藤原朝臣房前任中衛大將、

權大將

〔續日本紀 光仁 三十五〕寶龜十年十二月辛酉、以中務卿從三位藤原朝臣田麻呂為兼中衛權大將、

中將 員外少將

〔同 稱德 廿八〕神護景雲元年八月丙午、從四位下伊勢朝臣老人為造西隆寺長官、中衛中將參川守如故、

員外少將

〔同 孝謙 十八〕天平勝寶二年三月戊戌、賜中衛員外少將從五位下田

舍人

邊史難波等上毛野君姓、

〔同 十三 聖武〕天平十二年六月庚午、勅曰、宜大赦天下、○中略中衛舍人、左右兵衛、左右衛士、衛門府衛士門部、主師、使部等不在赦限、

〔同 十九 孝謙〕天平勝寶八歲七月己巳、勅、○中略中衛舍人亦以四百爲限、詳授刀舍人寮部、

〔同 二十 稱德〕天平寶字元年七月戊申、詔曰、○中略是日夕、中衛舍人從從八位上上道臣斐太都告內相云、今日未時備前國前守小野東人與斐太都謂云、有王臣謀殺皇子及內相、汝能從乎、斐太都問云、王臣者、爲誰等耶、東人答云、黃文王、安宿王、橘奈良麻呂、大伴古麻呂等徒衆甚多、斐太都又問云、衆所謀者將若爲耶、東人答云、所謀有二、一者、馳卒精兵四百將圍田村宮、二者、陸奧將軍大伴古麻呂今向任所行至美濃關詐稱病請欲相見、一二親情蒙官聽許仍即塞關、斐太都良久答云、不敢違命、

醫師

〔享祿本類聚三代格 四〕太政官符、

中衛左右衛士府、醫師各二員、

今省廢一員、定一員、

右被右大臣宣偁、奉勅、宜依件、省定、

延曆十八年六月一日 又見日本後紀八 職員令集解

使部

〔同 四〕太政官符、應定諸司使部事、○中略中衛府廿人、

延曆十四年七月十日、○詳衛士府

射騎田

〔續日本紀 二十 孝謙〕天平寶字元年八月辛丑、勅曰、○中略六衛置射騎田、中衛府三十町、又見類聚三代格十五

貯綿甲冑

〔同 廿四 淳仁〕天平寶字六年二月乙卯、造綿甲冑一千領、以貯鎮國衛府、

近衛爲左近衛中將爲右近衛

〔享祿本類聚三代格 四〕詔、中衛府者職同近衛、並是禁兵改○蠹餘似牧字馬、警巡斯重、東西分陣、夙夜在公、嚴肅非殊、理容畫一、自今□

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

卯
86
2

古事類苑

□□□□（以下段）後近衛府者為左近衛、中衛府者為右近衛、復置中將、示宜□□□□□□□□准近衛、主者施行、

大同二年四月廿二日、

（日本紀略 平城）大同二年四月己卯、詔去、近衛府者為左近衛、中衛府者為右近衛、

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2

ガラス使用

古事類苑

官位門
左右兵衛府

卯
86
2

東京圖書館
貴 門
卯 類
二 函
八六 架
冊 號

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2
ガラス使用

古事類苑稿
東京帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

No 2297/2

左右兵衛府

左右兵衛府ハ、兵衛ヲ撿校シ、閤門ヲ禁衛シ、時ヲ以テ宮内及ヒ市中ヲ巡撿シ、車駕行幸ノ時ハ、前後ヲ分衛シ、及ヒ兵衛ノ名帳、門籍等ヲ掌トル、兵衛ハ、最モ宮禁ニ近キ場所ヲ衛護スル兵士ノ称ナリ、兵衛ハ、内六位以下、八位以上ノ嫡子ノ年二十一以上ニシテ、弓馬ニ便ナルモノヲ簡點シ、兵部省ニ徴集シ、訓練シテ以テ之ニ充ツ、故ニ其ノ品位貴トク、選叙俸禄等ノ如キモ、他ノ衛士ノ類ニアラザルナリ、

其ノ人員太宝令制定ノ時、左右各々四百人ナリシガ、後屢々増減アリテ延喜式ニハ左右各二百人トス、

兵衛ノ称、日本紀用明天皇ノ朝ニアリテ、已ニ宮門ヲ禁衛セシコト見エタレ𪜈、未タ兵衛府ノ設置アリシニハ

東京圖書館

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

アラザルベシ、天武天皇ノ紀ニ至リ左右兵衛ノ称アレバ已ニ本府ノ設アリシナルベシ、文武天皇大宝令制定ノ時ニモ左右兵衛府ヲ置キ、身分アルモノヽ子弟ヲ撰ヒテ親衛ノ兵トス、後中衛近衛等ノ兵起ルニ及ヒ代リテ親兵トナリシヲ以テ、兵衛ノ職亦尋常衛士ト異ナルヿナキニ至レリ、其ノ詳ナルコトハ、猶ホ衛府雑載ノ條参看スベシ、

称呼改号

和名類聚鈔 五 職官部 職員令云兵衛府 由介比乃豆加佐

續日本紀 二十一 淳仁 天平宝字二年八月甲子、大保従二位兼中衛大将藤原恵美朝臣押勝 ○中略 等奉勅、改易官號 ○中略 左右兵衛府、折衝禁暴、

虎奔宣威、故改為左右虎賁衛、

同 續日本紀 二十五 淳仁 天平宝字八年九月丙辰、勅、逆人仲麻呂執政奏改官名、宜復舊焉、

異名

八雲抄 三下 左右兵衛 ○ 同 ○ 紀

唐名

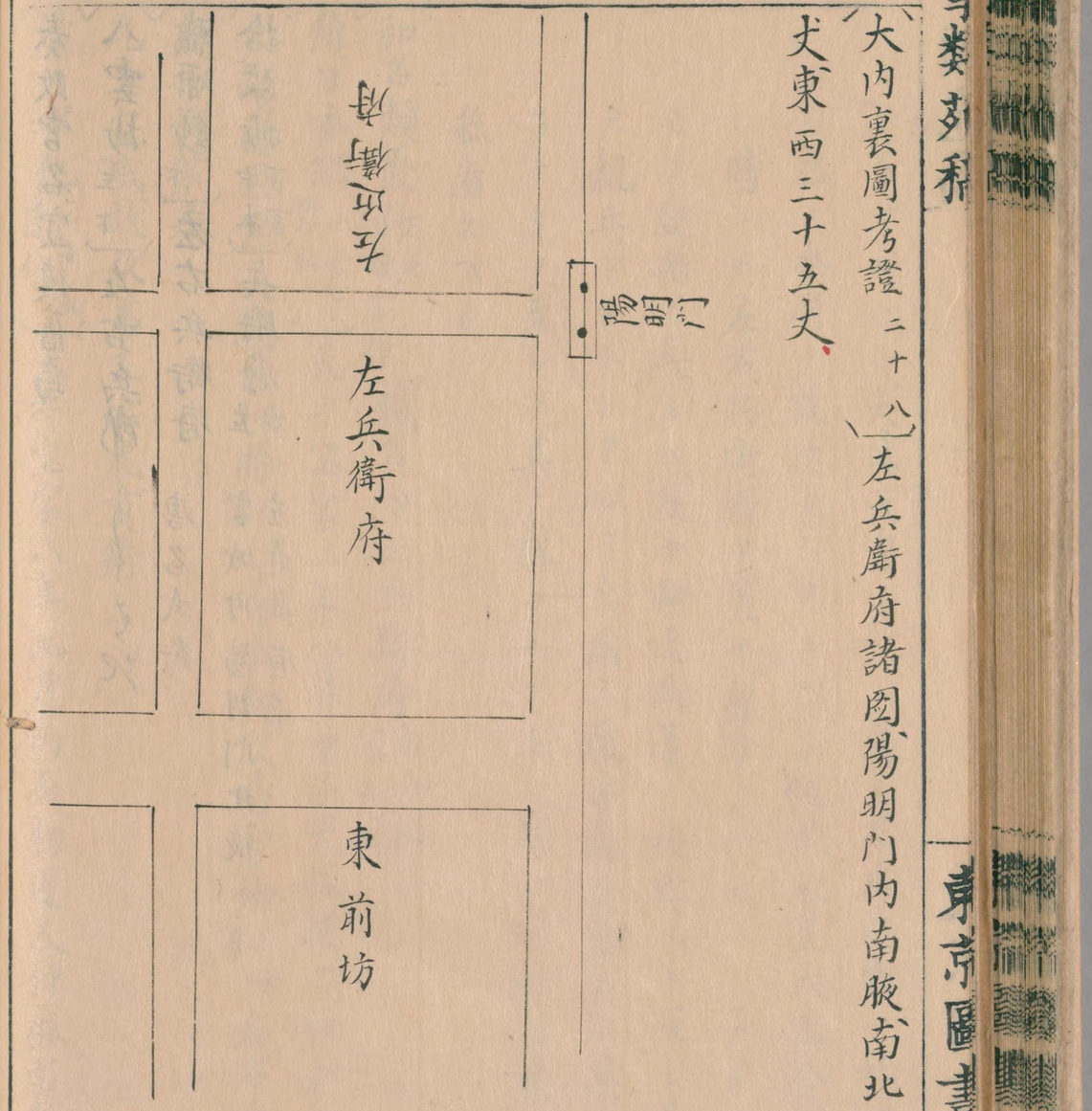
職原鈔 下 左右兵衛府 唐名武衛

占地

拾芥抄 中本百官 兵衛府 左右 宮城内陽明門北掖 左近衛府南

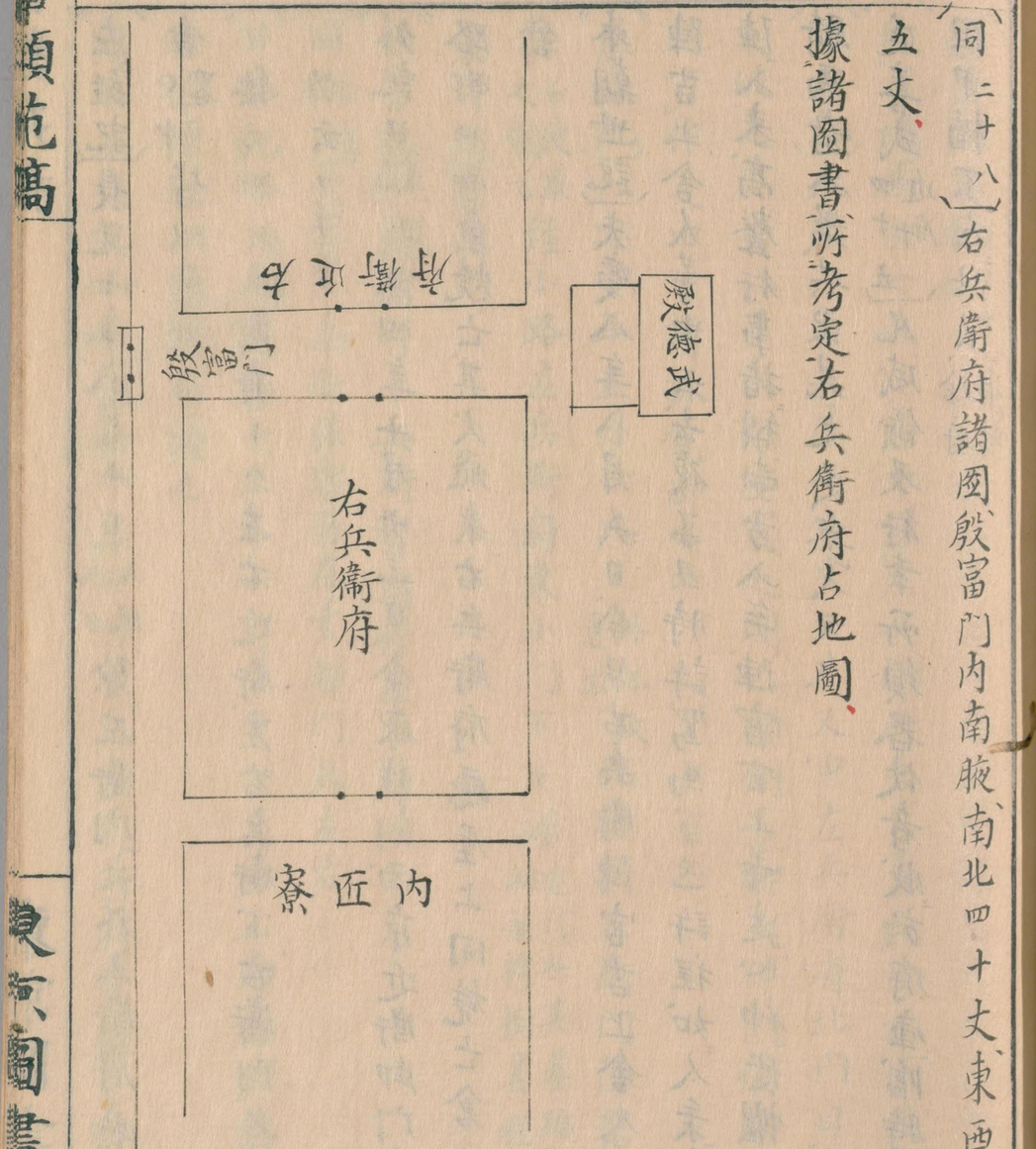
国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

大内裏圖考證 二十八 左兵衛府諸圖陽明門内南腋南北四十丈東西三十五丈



同 二十八 右兵衛府諸圖殿富門内南腋南北四十丈東西三十五丈

據諸圖書所考定右兵衛府占地圖



国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2
ガラス使用

正廳

左経記 長元七年八月十日、九日大風 除左衛門之外五衛府廳并襍舍○中略 皆以顛倒、

按スルニ、五衛府トハ左右近衛、左右兵衛ト右衛門ノ諸府ヲ云フナリ、

外記日記 長保四年十月十三日、今夜戌刻西京近衛御門北、小路町口西東燒亡、其火飛来右兵衛府廳屋上同燒亡倉并雜舍、

本朝世記 天慶八年八月六日、今日右兵衛陣官吉上舍人、左近陣吉上舍人等申云、去夜子丑時許駕馬百匹許程、如人乘自件陣入来、高聲行事指梨壺方入矣、陣官吉上等迷心神恐懼不出、騎馬者入畢、共出見之、更無人云々、

府庫

延喜式 四十五 近衛 凡威儀及行幸所須器仗者、收於府庫、臨時出用、但甲楯不在此限、餘府准此、

厨院

類聚国史 百七十三 厚和 天長三年正月庚午、亥尅失火左兵衛府厨院、灰滅厮女一人、 壬申、縁左兵衛府失火事、被除於南庭、

北門

中右記 永久二年六月十八日云々、又申左兵衛府北門、自本及大破之處、去八日未刻、地震之間已顛倒了、仰云、件門淡路守輔明可作之由、申請、様覚御也、

東小門

愚昧記 仁安四年正月十九日、外記政退出 北行於左衛門陣架下取裾、召使取之授之 経小路左兵衛府東小門下々裾 近代無其基跡、二本相並樗樹其程云々 東行到陽明門、

督宿所

西宮記 臨時五 宿所 兵衛督宿所在本陣、

佐宿所

同 臨時五 宿所 兵衛佐宿所在玄暉門外左右、

佐曹司

日本紀略 醍醐 延喜十五年十一月廿一日、停五節舞姫、依左兵衛佐源敏相曹司死穢也、

駕輿丁町

續日本後紀 十 仁明 承和八年七月甲戌、左兵衛府駕輿丁町西北

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

町

要劇田

射騎田

蒭畠

幕

職員職掌

角失火燒損百姓庐舍卅餘烟、驅追行人、令撲滅矣、

拾芥抄（中末宮城）諸司厨町　左兵衛町（近衛南堀川東一町）

類聚三代格（十五）太政官符　應割官田充諸司要劇并番上粮料事、大和国　左兵衛府卅三町七段三百廿四歩　右兵衛府卅三町七段三百廿四歩　元慶五年十一月廿五日、（○節文）

續日本紀（二十孝謙）天平宝字元年八月辛丑、勅曰、六衛置射騎田、左右兵衛府各十町、（又見類聚三代格十五）

延喜式（四十七左右兵衛）蒭畠七町五段（在山城国）

同（三十七典薬）左右兵衛府各卅種、　呉茱萸四升五合、

同（四十七左右兵衛）幕卅條（絁十條、細布十條、調布十條、）並廿年一度申官作替、其儀服已下破損物充府中雜用、

令（一職員）左兵衛府（右兵衛府准此、）

督一人、掌（下）撿挍兵衛、（謂毎番撿挍、此府不称門牓者、是即略文、更无別例、）分配閤門、以時巡

官位相當

昇相當

巡撿、車駕出入、分衛前後、及左兵衛名帳門籍事、（上）佐一人、大尉一人、少尉一人、大志一人、少志一人、醫師一人、番長四人、（謂依文、番長者、在兵衛四百人之外、）兵衛四百人、使部卅人、直丁二人、

同（一官位）從五位（○上階）左右兵衛督　正六位（○下階）左右兵衛佐　正七位（○下階）左右兵衛大尉　從七位（○上階）左右兵衛少尉　從八位（○上階）左右兵衛大志　左右兵衛醫師　從八位（○下階）左右兵衛少志、

拾芥抄（中官位相當）正八位下左右兵衛大志　從八位上左右兵衛少志、

類聚三代格（五）太政官謹奏、

定官位事、

衛門府

督一員、

右元正五位上官、今定從四位下官、

佐一員 ○據日本後紀八、此間當有元從五位下官、今為從五位上官之數字、

右元從五位下官、今定從五位上官、其左右兵衛府伏請

一准此府、

左右兵衛府、

今加少尉各一員、少志各一員、

右件任居禁衛職、資警守、部統之方無異庶府、而官員是

少行事稍多、伏請加置件員、克理府事、其官位者前後一准

衛門府、

延暦十八年四月廿三日、

唐名

拾芥抄 中本官位唐名 兵衛督 左右 武衛 威衛 鷹揚衛 威衛大將軍 武衛大將軍 鎮軍大將軍

佐 武衛將軍 鎮軍將軍 威衛將軍 鷹揚將軍 尉 武衛長史 校尉鎮軍長史 威衛長史 今号武衛

志 武衛錄事 鎮軍錄事 威衛錄事 府生 武衛史 參軍事

任例

官職秘鈔 下 左右兵衛府、督 任人同衛門督、但殿上四位或

任之、大辨兼任例 希、中辨兼任例 俊実、近衛中將兼任例 清経、五位任

例 直臣 佐 權佐、已上任人如衛門佐、少納言兼任例 法興院大臣 能信、自馬助遷任例 俊輔 改長、四位例 斉敏 清盛 尉 大小 諸宮侍長先坊

帶刀、攝政內舍人、或成功者等任之、或自諸司三分遷任之、凡以

以重代授之、又有依文章生労身任例、清原為長、上原改隆、又有依府奏任

例、高階貞任、令云、大少尉各一人、其後任人多加、而久安被下宣旨、

以左右各二十人為員數、近代及三四倍、志 大少 本府奏、或臨

時內給任之、自帶刀任例 藤良臣、

職原鈔 下 左右兵衛府、

督一人、

中納言參議散二三位非參議四位等皆任之、

佐一人、

東京圖書館

国立国会図書館 タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2

ガラス使用

擁佐一人
五位殿上人中可然之輩任之但英雄強不望之即任少將
故欤
尉大少
六位諸大夫并侍任之侍者自當府尉多轉衛門也諸大夫
不必然
志大少
非要官仍府官之外強不任之
府生 同前
任官勘例 左右兵衛督大弁任例
希世
中弁兼任例
俊賢卿

考課
率督

近衛中將兼任左右兵衛督例
清経
左右兵衛督為五位例
貞臣
左右兵衛擁佐兼任少納言例
法與院殿 能信
自馬助遷任左右兵衛佐例
俊輔 政長
令四 部統有方 謂方者義方也警守先失為衛府之最謂尉以上
考課
續日本紀二文武 大宝元年正月丁酉以守民部尚書直大貳粟田
朝臣真人為遣唐執節使○中 右兵衛率直廣肆坂合部宿祢大
分為副使事具 唐部
同四元明 和銅元年三月丙午以從五位上佐伯宿祢垂麻呂為左

帝室圖書館
帝室圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2
ガラス使用

兵衛率、從五位下高向朝臣色夫知為右兵衛率、

同十七孝謙 天平寶字元年八月辛未○中略 左兵衛率正五位下鴨朝臣角足為兼大忠、

同二十孝謙 天平寶字元年六月壬辰、以從五位下日下部宿祢子麻呂、為左兵衛督、從五位下石川朝臣人公為右兵衛督、

蒲生秀実職官志第五 ニ云ク、兵衛督、考之史、其初作率、和銅元年從五位下佐伯垂麻呂為左兵衛率、從五位下高向色夫知為右兵衛率、天平勝寶元年、亦有左兵衛率、正五位下鴨角足至寶字、蓋改率作督、故元年從五位上日下部麻呂為左兵衛督、從五位下石川人公為右兵衛督、

續日本紀十九孝謙 天平勝寶八歲五月乙亥、勅曰、右兵衛率從五位上鴨朝臣虫麻呂叙從四位下、○節文

同二十三淳仁 天平寶字五年十月癸酉、以右虎賁衛督從四位下仲真人石伴為遣唐大使、從五位下藤原惠美朝臣辛加知為左虎賁衛督、

按スルニ、左右虎賁衛ハ、即チ當時兵衛府ノ改称ナリ、

同二十五淳仁 天平寶字八年正月己未、以從五位下大原真人宿奈麻呂為左虎賁翼、從五位下藤原惠美朝臣薩雄為右虎賁率、

日本後紀二十嵯峨 弘仁元年九月丁未、繫右兵衛督從四位上藤原朝臣仲成於右兵衛府、

督佐異称

蜻蛉日記上 かくありし時をこそ○天暦八年 右の中より伊と物もとの形くとにそこくは毎つゝ侍世りふる人有けりがしこうとても人に言似たれ、心ぐましひもあるにも何して、かう物のゆうまもあらはくあるもことわりとおもひつゝ、そこふしおき明し書はましに右の中に小おおかる古物

東京圖書館

語乃ましまと我それハ在りおほゝる夜言堂に阿り、
人にもあらぬ身のうへ御てうぶ記してめつゝ發さ後
にもありなん天ゝしたる乃人のし物言さ女なりしもむ
しあしにもせよかしと覚ゆるをるにし年月の比の事
も覚束なかりけるにさてを有ぬべきこと南おれの
望けるさてあハつけかりしぬるどものそれハそ是と
して栢木の木なるき和たりよ望このくいもせむと思ふこ
と有けり

按スルニ此日記ノ作者ハ藤原倫寧ノ女ニシテ摂政藤
原兼家ノ室ナリ天暦年中兼家右兵衛佐タリシカハ栢木
ノ木高キ云々トハ云ヘルナリ

〔拾遺和歌集 雜戀〕中納言敦忠兵衛の佐ニ侍りける時に

右近

人志れぞたのめしこれハ栢木乃りや志りけん在り
ふりにかれ

〔後拾遺和歌集 哀傷〕左兵衛督経衆身まかりにけるその
いゝにいもうとのあつうひなとせんとて師賢朝臣こそ
ぞ侍りけるにつかりける

小左近

よそにきく袖も露けきかしもきのりとの志ひく
を思ひこそやれ

〔大和物語 二〕良少将兵衛の佐なりけるころ監令姫に
なんすゝけるなんなれをとより
かしもぞの森の志ゝ草おひぬとも身をいゝづゝに
なきずそ阿らなん

〔枕草子 六〕うしも本いとをかし葉りの神のまもらん

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2　ガラス使用

もいとうしこし兵衛のたけぞうなとをいふんも
をかし、
〔月詣和歌集 夏憲〕物中ける女の兵衛佐なりける人にかゝ
らひつきぬときこゝ遣しける、
泰儀通親
柏木の葉雪の神のたゝれもや三笠の山をさしもなふ
ふらん、
〔月詣集標注〕濱臣云く兵衛を柏木、大中少將を三笠山
と異名する事ハ後撰拾遺等の歌にもじまれるよ
し、顯昭法橋、契仲阿闍梨ふと委しく云ハれたり、

員外佐

〔續日本紀 三十四 光仁〕宝亀八年正月己卯、從五位下紀朝臣真乙為
左兵衛員外佐、

増加少尉 少志左右

〔類聚三代格 五〕太政官謹奏 左右兵衛府、今加少尉各一員

一員

少志各一員、右件任居禁衛職資警守、部統之方無異庶府、而
官員是少行事稍多、伏請加置件員、克理府事、其官位者前後
一准衛門府、延暦十八年四月廿三日 ○節文
〔日本後紀 八 桓武〕延暦十八年四月辛丑 ○中略 左右兵衛府、加少尉
一員少志一員、其官位者一准衛門府、
〔百練抄 七 近衛〕久安四年正月廿八日、左右兵衛尉各廿人、永可為
員數之由被仰外記、
〔職原鈔後附〕左右兵衛尉各二十人、久安四年正月二十四日、以藏人木工頭平範家仰外記
左右衛尉各二十五人 ○中略 永可為員數者、保元三年正月三十日、以藏人右少弁親
範仰外記、

醫師

〔續日本紀 八 元正〕養老五年六月癸卯、始置左右兵衛府醫師各一
人、
按スルニ本府ノ醫師令條已ニ載スル所ナリ、然ルヲ史ニ

始メテ之ヲ置クト云フニ據ルトキハ令條載スル處或ハ追書ナランカ

兵衛初見

日本紀二十一用明 元年夏五月、穴穗部皇子、欲姦炊屋姫皇后、而自強入於殯宮、寵臣三輪君逆、乃喚兵衛、重璅宮門、拒而勿入

按スルニ、此レ宮闈ニ近キ護兵ヲ兵衛ト称スル事ノミエタル始ナリ、但シ当時未タ正シク兵衛府ノ制ハ有ラサルヘシ

左右兵衛

同二十九天武 朱鳥元年九月丙午、天皇崩于正宮、○中略甲子、直大參當摩奥人国見誄左右兵衛事、

按スルニ、是ニ至リ左右兵衛ノ称アレバ當時已ニ本府ヲ置タルモノナルヘシ

同三十持統 三年七月辛未、流偽兵衛河内国渋川郡人柏原廣山于土佐国、以追廣參授下捉偽兵衛廣山兵衛生部連席、

簡點兵衛

令五軍防 凡兵衛者国司簡郡司子弟謂郡司少領以上也、子弟者子孫弟姪也、強轄便於弓馬者、郡別一人貢之、若貢采女、郡者不在貢兵衛之例、三分一国二分兵衛、一分采女、謂假令一国有三郡者二郡貢兵衛、一郡貢采女、若其不等者、従多貢兵衛耳、

同五軍防 凡内六位以下、八位以上嫡子、年廿一以上、見無役任者、毎年京国官司勘検知実、責状簡試分為三等、儀容端正、工於書筭、謂二事不相須、即以下身材強幹等亦准此、其先補使部、後父為五位者、令無申送之文也、為上等、身材強幹、謂材猶力也質也、便於弓馬、為中等、身材劣弱不識文筭、為下等、十二月卅日以前、上等下等送式部簡試、上等為大舎人、下等為使部、中等送兵部試練、為兵衛、如不足者、通取庶子、謂止據兵衛不為舎人也、

按スルニ、前条ヲ併セ見テ兵衛ハ郡司ノ子弟ト六位以下八位以上ノ嫡子ヨリ成立コトヲ知ルヘシ

東京圖書館

續日本紀 二文武 大宝二年四月壬子、令筑紫七国及越後国簡點采女兵衛貢之、但陸奥国勿貢、

同 九元正 養老六年閏四月乙丑、太政官奏曰、望請陸奥按察使管内百姓庸調浸免其国授刀兵衛、皆悉放還、各從本色、奏可之、○節文

同 九聖武 神亀三年九月己卯、停安房国安房郡、出雲国意宇郡采女、令貢兵衛、

同 十九孝謙 天平勝宝七歳五月壬子、太宰府管内諸国国別貢兵衛一人采女一人、

類聚国史 四十桓武 延暦十七年三月壬申、詔曰、○中略 郡司譜第之選永從停廢、取藝業著聞堪理郡者為之、国造兵衛同亦停止、但采女者依舊貢之、

享祿本類聚三代格 四 太政官符、

停国造補兵衛事、

右撿去三月十六日勅書、你郡領譜第既從停廢、国造兵衛同亦停止者、今中納言從三位壹志王宣、你奉勅、先補国造、造服帶刀仗、仕奉宿衛、勤官之労、不可不矜、宜除国造之名、補兵衛之例、

延暦十七年六月四日 ○又見類聚国史十九係四月甲寅

兵衛上番

令 十六宮衛 凡兵衛衛士上番、衛士上番、謂自本国初上者、謂兵衛者、每番奏聞、衛士者、唯初上一週奏聞也、皆須撿點正身、然後奏聞、謂兵衛衛士、正身見在者、即以少墨點其名上也、奏聞者、本衛各奏聞也、

擬兵衛

延喜式 四十七左右兵衛 凡擬兵衛者、預擇定便習弓馬者入色廿人已下白丁五人已下、修奏進内侍、奏訖即遣勅使試其才藝、騎射一尺五寸的、皆中者為及第、歩射卌六歩十箭、中的四已上者為及第、若一箭不中皮者、以二的准折、

考選

令 四考課 凡兵衛立三等考第、恭勤謹慎宿衛如法、便習弓馬者、謂弓

東京圖書館
東京圖書館
国立国会図書館 タイトル『古事類苑』 請求記号 卯-2
ガラス使用

馬相須即得為上也為上番上不違職掌無失雖解弓馬非是灼然者謂或弓或馬一者灼然亦為中也為中違番不上數有犯過謂數者三度以上也犯者故犯也失者過失也並是杖罪以下即降其考若至徒以上者仍可解任也好請私假不習弓馬謂雖習弓馬而好請私假者比類中等優劣殊懸猶居下第其自餘諸條居下仰上企而不及者亦准此也者為下

賜祿

同四選叙　凡叙舍人史生兵衛伴部使部及帳内資人並以八考為限八考中進一階四考中四考上進二階八考上進三階叙

同四祿　凡兵衛六月内上日夜各八十以上者給祿有位准大初位無位准少初位授刀舍人亦准之

續日本紀九元正　養老七年十月乙卯詔曰左右兵衛賜祿有有差○事具祥瑞部

令集解二十二祿　天平宝字三年格云授刀舍人兵衛等有位釜十今減二口无位五口今減一口

續日本紀二十孝謙　天平宝字元年四月辛巳勅曰中衛兵衛舍人歷仕三十年已上加位一級

使還免番

令五軍防　凡兵衛使還者經三番以上謂差遣遠使及征討并防人部領等之類也三番以上者雖經二三年尚亦准此法也免一番若欲上者聽

考滿校練

令五軍防　凡兵衛每至考滿兵部校練謂唯據考文不可試才即與式部銓擬法不殊也隨文武所能具為等級謂計堪理務者為三等之品級也申官堪理時務者量才處分謂量其才能任文武官即雖有武才不堪理務者亦不可任用也其年六十以上皆免兵衛謂考校之日乃放免也即雖未滿六十若有尫弱長病不堪宿衛及任郡司者謂長病者不可必滿日限量狀不堪宿衛者即解也郡司者主帳以上也本府錄狀并身送兵部撿覆知實奏聞放出謂兵部奏聞也

給大衣

延喜式四十七左右兵衛　凡兵衛卅人三年一給大衣錄奏請色同近衛府兵衛四百人番長四人横刀緒料深緑帛人別七尺五寸隔三箇年奏請但右兵衛深緑纈

資養

續日本紀八元正　養老四年五月癸酉太政官奏諸司下国小事之

類以白紙行下、於理不穩、更請内印、恐煩聖聽、望請自今以後、文武百官下諸国符、自非大事若逃走衛士仕丁替及催年料、廻殘物并兵衛采女養物等類事、便以太政官印印之奏可之、

〔同十聖武〕天平元年四月庚午、諸国兵衛資物令當郡見在郡司節級輸之、仍附貢調使送所司、其輸法以上絁一疋充銀二両、以上絲小二斤庸綿小八斤庸布四段米一石並充銀一両、即依當土所出准銀二十両、

〔續日本紀考證五〕養老四年五月紀云、太政官奏、兵衛采女養物等類事、以太政官印印之、案養物即資物也、

〔日本後紀二十二嵯峨〕弘仁三年三月丁卯、異能之兵衛毎府四人、准近衛給別祿月粮、

定額

〔同十七平城〕大同三年七月壬寅、○中略近衛兵衛元各四百人、今定各三百人、

〔同二十一嵯峨〕弘仁二年十月壬申、詔○中略其左右衛士兵衛等宜依舊数詳衛士府部

〔延喜式十二〕時服左兵衛府二百六十七人、督一人、佐一人、大尉一人、少尉二人、大志一人、少志二人、府生四人、醫師一人、番長四人、兵衛二百人、駕輿丁五十人、右兵衛府准此、

員外舍人

〔享祿本類聚三代格四〕太政官符、應定諸衛府員外舍人数事、左兵衛府二百人、右兵衛府准此、○下略

寛平三年十二月十五日、○詳近衛府

使部

〔同四〕太政官符、應定諸司使部事、左兵衛府廿人、右兵衛府廿人、○下略

延暦十四年七月十日、○詳衛門府

駕輿丁

〔延喜式四十七左右兵衛〕凡駕輿丁五十人、

長官巡検

〔令十六宮衛〕凡五衛府官長、皆以時按検、謂與職員令以時巡検同、其判官以下、自依上條毎日按検也、

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2
ガラス使用

宮門護衛

同（十六宮衛）凡應入宮閤門者、（謂衛門所守謂之宮門兵衛所守謂之閤門也、）本司具注官位姓名（謂本司者在京諸司皆是也、具注官位姓名者、此為主典以上、立文其雜任准此也、）送中務省付衛府、各從便門著籍（謂五位以上身貴朱紫、事殊士庶、故在京者、皆於諸門着其通籍也、）皆非着籍之門者、並不得出、若改任行使之類（謂改任者、出任外官、若在京遷官者、至一日十六日、須據其籍、其未換之間、尚依舊籍也、之類者、假患等類、亦約此中也、）者本司當日牒省除籍、每月一日十六日、各一換籍、（宿衛人准之、）

宮中夜行

延喜式（四十七左右兵衛）凡分配諸處者、東宮官人一人、兵衛廿人、其行夜者、中隔二人、（起亥一刻、訖子四刻、但右起丑一刻、訖寅四刻、）八省院豐樂院各一人、（起子三刻、訖丑三刻、但右起丑四刻、訖寅四刻、）大藏二人、內藏一人、（起子三刻、訖丑三刻、但右起丑四刻、訖寅四刻、）馬行二人、巡行京中、（起亥一刻、訖寅四刻、）其馬者、馬寮每夜加鞍、并衛士送、穀倉院一人、（分番差送、）

侍中群要（四）宮中夜行、宮中夜行、左右近所奉仕也、中重夜行、左右兵衛勤行、（從亥刻至子刻、左奉仕、從丑刻至寅刻、右奉仕、）

京內夜行

三代実錄（十四清和）貞觀九年二月廿七日丁酉勅、左右近衛左右兵衛分結四番、夜行京內、賜左右馬寮未調御馬而騎焉、

同（二十八清和）貞觀十八年四月廿七日、分遣左右近衛左右兵衛等勇幹者、騎官馬於東西京中、每夜巡行伺視非常、

續日本後紀（十仁明）承和八年正月乙酉、左右衛府言、撿舊例夜行御馬本寮飼丁控持朱雀門下、待時乘騎巡撿城中、而去弘仁年中被配此府、其後所行御馬隨死、請替請替之間、徒經數日、望請依舊例、復本寮者、許之、

車駕護衛

令（十六宮衛）凡車駕出行、（謂出幸於京外也、）兵衛衛士先按行、（謂按撿於行列也、）及道邊隱暎處、撿察非常、（謂隱者、隱翳也、暎者、暎瞬不明、其備預諸不虞、司衛之善政、故至於隱暎之處、必慎非常之變也、）前後呵叱觀人大言、登高者使下、（謂凡天子出行、放人令縱觀、若高聲大言、及登高臨矚者、並皆呵禁、令其抑下也、）若有所幸（謂於宮中及京內、有所臨幸也、）皆先防禁門巷、（謂閭閻門戶、及巷里道術、防禁其人物、並皆令靜謐也、）駈斤所不當留者、（謂去乘輿三百步之內、非陪幸之人、不得輒近、故皆

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2　ガラス使用

駈行也、

行幸供奉

延喜式兵衛四十七凡供奉行幸官人以下裝束並准近衛騎馬私

同兵衛四十七凡駕行之日分配兵衛者御輿長二人不帶弓箭御膳前二人、御馬副二人、自餘陪陣、

同兵衛四十七凡供奉行幸駕輿丁裝束十一具中宮准此、

續日本紀三十八延曆四年正月丁酉朝天皇御大極殿受朝始停兵衛叫閽之儀、

雜載

延喜式近衛四十五凡大處略中左右兵衛直參入陣紫宸殿前、

同兵衛四十七凡捉人將領兵衛二人每番移送京職、

同兵衛四十七每月晦日掃除宮中者差將領府生一人兵衛四人送民部省、

侍中群要十一伐中重枯木事仰左右衛門府令伐若隨便陣仰令左右兵衛伐其木上之由至于木作物所申之、

延喜式兵衛四十七凡鮮鰒御贄隔三日進左子辰申右酉巳丑、

東京圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2

ガラス使用

特別
卯
88
2

古事類苑

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2

ガラス使用

特別
卯
43
2
合

国立国会図書館　タイトル『古事類苑』　請求記号 卯-2

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『古事類苑』　請求記号　卯-2

ガラス使用